

アサヒグループホールディングス株式会社
2024年12月期第3四半期 決算説明会 説明概要①

日時：2024年11月14日(木)17:00~18:00

当社登壇者：代表取締役社長 兼 Group Chief Executive Officer 勝木 敦志

◆エグゼクティブ・サマリー (P1)

- 第3四半期決算としては、市場環境の悪化が継続しているオセアニアが減益となりましたが、日本や欧州の単価改善やコストコントロールなどでカバーし、トータルでは計画を若干上回る2.3%の増益となりました。
- 各リージョンでの価格改定効果やプレミアム戦略の進展に加えて、AGPROによるグローバル調達機能の強化などにより、コスト全般の効率化が進展しました。
- 但し、オセアニアに関しては、下期は一定の回復を見込んでいたものの、第3四半期も市場環境の悪化が継続しており、年間計画に対して厳しい進捗となっております。
- 今後の方針としては、主力ビールブランドの挺入れに加えて、好調なRTDのマーケティング強化や自助努力による収益構造改革も加速していくことにより、来期以降の着実な回復につなげていく方針です。
- 今期のオセアニアの未達リスクに対しては、好調な日本や欧州、その他事業でできる限りカバーし、グループトータルで計画の達成を目指してまいります。
- 来期については、各リージョンで原材料などの市況軟化がメリットとなる可能性がある一方、日本のように、加工賃や物流費の高騰などコストアップの継続も見込まれます。
- 変動費のコストアップに対しては、引き続き適切な価格戦略で対応していくと共に、これまで継続してきたプレミアム戦略や、サステナビリティ・DX・R&Dなどコア戦略への投資の果実を享受することで、持続的な収益性向上に取り組んでまいります。
- また、中間決算の発表の際にご説明したように、来年2月には資本コストを踏まえた新たな財務方針を開示すべく、株主や投資家の皆様と対話を深めております。
- これまでも、成長戦略に加えて、重視すべき指標などに関して様々なご意見を頂いており、引き続き対話を継続しながら、執行部門および取締役会において議論を重ねてまいります。

- 尚、今期の自社株買いは取得枠 300 億円を上限として、現在着実に買い増しを進めておりますが、来期以降の可能性に関する質問や要望も頂いております。
- 現時点で具体的な施策は決まっておりませんが、そもそも自社株買いについては、実施するとしても、業績の進捗や投資機会などを踏まえる必要があることに加えて、来年は 10 月の劣後債の早期償還なども考慮する必要があります。
- よって、ご質問があった皆様とはお話しておりますが、来年 2 月に今後の財務方針の大枠は開示いたしますが、自社株買いなどの具体的な施策の発表は、同じタイミングになるとは限らないことを、予めお伝えしておきたいと思っております。